

'93 河合塾サテライト文化講演会

『学徒出陣を考える』

日 時：8月14日(土) 15:10～16:40

会 場：各校舎サテライト教室

対談者：最首 悟（駿台予備学校講師）

酒井敏行（代々木ゼミナール講師）

吉川勇一（代々木ゼミナール講師）

牧野 剛（河合塾講師）

講演者：鶴見俊輔 氏（思想家）

高畠 平 氏（日本戦没学生記念会理事）

三大予備校といわれるSKYの講師が揃い、イベントを行う！

かつて、このようなことは一度たりとも行われたことがなかった。

史上初の試みである。

君の参加もまた、このイベントに拍車をかける！

学校でならった「学徒出陣」は、教科書ではたったの一行、説明すら満足に書かれていない。過去の出来事を伝え教え、それについて考えさせることが教育ではなかろうか。

戦後、「戦争」に対する罪の意識を、国家はアジアに対し、日本に対し、どのように問うたのだろうか。

戦争が終わって48年。「学徒出陣」から50年。なぜ学生たちは「学徒出陣」という形で強制的に召集され、戦争に送り込まれなければならなかったのか、加わらなければならなかったのかを当時の社会状況と照らし合わせ考え、それは現在の私たちにどのような意味や反省を与えるものなのかも考えてみたい。



「夏」だからこそ、いろいろな情報を獲得し、机上では決して学ぶことのできない知識を蓄えてみよう。視野を拡げ、積極的に考え取り組むことによって新たな自己発見もできる。

当時のニュースフィルムや実際出陣された方々のお話も交え、予備校講師が対談。また、途中でFAXやTELでみなさんの意見も随時募集します。

河合サテライトネットワーク

対談者プロフィール



さいしゅ さとる
最首 悟

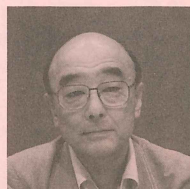
(駿台予備学校講師：小論文担当)

予備校講師の傍ら東大助手としても活躍。やさしい表情の内に秘められた反骨精神は、我々に熱く送り届けられる。著書に『出月私記―浜元二徳語り』『水俣の啓示』(共著)他多数。

【メッセージ】

学徒出陣があった1943(昭18)年は、私が国民学校1年になったときです。無邪気に暮しながら、先生や親から聞かれれば、「お国のために」が自然に口から出る子どもだったのです。ただ今から思えばの話ですが、やはり日本は正義の闘いをしている、アジアの貧しい人たちのため、アジアの平和のために戦争しているんだという気持はあったと思うのです。それだけに日本人300万人、アジア人2,000万人の死者のことは忘れてはいけないと思っています。学徒出陣をした大学生もほとんど死にました。

でももっと大切なことがあります。少年兵として戦艦武蔵の少数の生き残りとなった渡辺清さんは、復員してきて、まわりの人々が黙々と畑仕事をしていることに、猛烈に腹を立てました。いつでもどんなときにも私たちは暮しを立てるのです。その連続の中で、私たちはまたそのときどきの小さな選択をするのですが、それが思ってもみなかった事態として表われる、そのことに深く自覚的でありたいと思います。



よしかわ ゆういち
吉川 勇一

(代々木ゼミナール講師：英語担当)

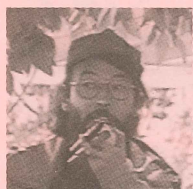
BASIC英語を中心に活躍。予備校講師の他、市民連合に加わり積極的に活動する。元、ベ平連事務局長。著書に『市民運動の宿題』訳書にウオレン『失踪』他多数。

【メッセージ】

先輩たちの「わだつみ」の悲劇を繰返すまいと、私は、ちょうど諸君たちと同年齢だった頃から反戦・平和の運動に参加してきました。しかし40年以上にもなる私の努力してきたことを振返ってみて、それは全体として失敗したということを認めざるを得ません。なにしろ違憲の自衛隊が出来て、それが海外に派遣され、そして憲法自体までが累卵の危機に立たされているようになっている現在なのですから……。

先日(7月)のデモ(主催：海外派兵に反対し、堂々と一歩を歩く「教師」の会)に参加された各予備校の生徒諸君をはじめとする若い人びとの明るい顔を見ていて、この事態をくいとめ、さらに憲法前文の精神にそって日本をつくり変える仕事は、この人びとによって担われるのだ、という思いを強くしました。

大先輩の悲劇や、私たちの失敗をくりかえさず、世界の諸国民の公正と信義に信頼して、日本の安全と平和を確保するような未来をつくれるよう、心から期待します。



さかい としゆき
酒井 敏行

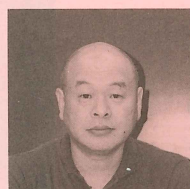
(代々木ゼミナール講師：現代文担当)

通信衛星を使った「サテライン」で授業もする人気講師。予備校講師の他、日本戦没学生記念会「わだつみ会」にもかかわる。著書に『酒井の「現代文ミラクルアイランド」―評論編』他多数。

【メッセージ】

ゆっくりと、しかし確実にこの国は経済的な世界支配と共に自衛隊という強大な軍事力を利用して政治的な世界支配に突き進んでいる。そのために国連のPKOに参加して金だけではなく血も流すような軍事行動に積極的に関わっている。またもう一方では国内において世界各国から孤立してしまうから日本も軍隊を送って「国際貢献」をすべきだという上からの世論操作を積極的に権力者たちは行っている。それとともに文部省による教科書検定では自衛隊の海外派兵を絶賛する表記を強制し、指導要領では「君が代」を国歌、「日の丸」を国旗として規定し、その斉唱と掲揚を義務化している。50年前、政府は「東洋の平和のために」という美名の下に数多くの学生を侵略戦争に駆り立て、死を強制した。この50年間で抑圧されている他者との関わり、国家権力のありようは果たして変わったと言えるのだろうか。

ぼくは、そこから発言し君と共に考え行動しようとおもう。



まきの ごう
牧野 剛

(河合塾講師：現代文担当)

“常に過激なれ”をモットーに豊富な人生経験と独特の話術で魅了。予備校界のスーパースター。著書に『予備校にあう』鎌田慧氏との共著『国境を越えて』他多数。

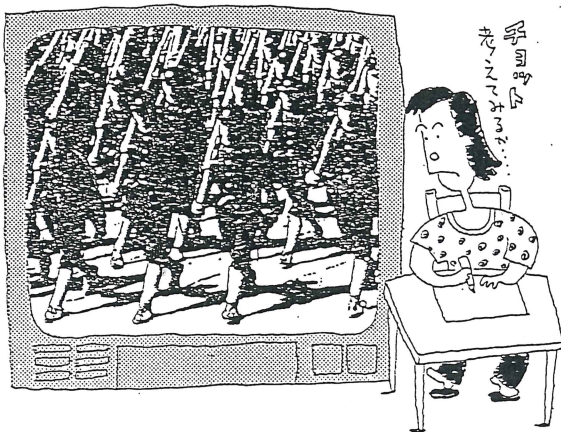
【メッセージ】

50年前初冬、国家の命令を受けた大学生たちは、神宮の森に集い、時の首相東条英機の激励を背に死地に赴いた。しかし、多くの学生たちにとって、自分たち同様、戦場に行った農民、労働者、市民の姿は、今一つ見えず、まして、その戦いの地が、アジア民衆の故国であり、学生―日本の行為こそ典型的な侵略行為であることを理解できなかった。

後れて近代化した極東の小国日本にとって、「脱亜入欧」「攘夷」等の発想が何を意味しもたらしたのか、そしてそうした国家的な動きの中で、教育がどのような働きをしたのかを探り考えることは、世界が激変し、又、国内も流動化しつつあるこの国にとって絶対に重要であるばかりでなく、喧しい“国際貢献”問題と共に、若者の必須の課題であることを確信する。

予
備
校

入試に役立たぬが
考えた方がいい



講演や座談会、質疑・討論も

河合塾サテライト文化講座
 演題 演説会『生徒出席を考えた』
 と題した企画。東京・六本木のスタジオアポロで、生徒出席のニュース映像や、ビデオ録画した講演会、座談会の様子などを交えて九十分間、生番組で放送する。

放送を受けるのは、全国約三十カ所の同塾教室のほか、約二十カ所の提携生協校と、同塾の通信衛星放送ネットに加入している約四十カ所の高校を加えた計約百五十校。当日は教室を開放するだけでなく、数千人の予備校生たちが見物客にならうという。

番組のキャスター役を務めるのは同塾講師（現代表）の

牧野剛吉(さか)は、豊富な人生経験と独特の話術で予備校界のスーパースターと呼ばれる。「学校でなにも生徒出陣は、教科書に二行しか出て来ない。生徒たちの大部分は、『関係ないや』と思っていやと思うが、五十年前も学生は兵役を猶予をわけていて、いよいよと思つていよいよに戦争に出なければならなくなつた」と話す。あまりに個人的な生活に明け暮れていると大變なことになるやういふので、生徒たちと話し合つたといふ。	代々木ゼミナール講師(笑)で、元「平和連」事務局長の吉川勇一さん(笑)も座談会に出演する。吉川さんは番組のチラシに、こんな思いを記している。
「先達たちの『わたしたち』の悲劇を繰り返さない」とは、まさしくこの国語科と、同年齢だったなかから反戦、平和の運動に参加して来ましたが、しかし振返つてみて、自衛隊の海外派遣などの間の世の中の動きを考えるとこれは全体として失敗したといふ。	「先達たちの『わたしたち』の悲劇を繰り返さない」とは、まさしくこの国語科と、同年齢だったなかから反戦、平和の運動に参加して来ましたが、しかし振返つてみて、自衛隊の海外派遣などの間の世の中の動きを考えるとこれは全体として失敗したといふ。

「このほか評論家鶴見愛輔さんの「戦争体験の半世紀」と題した講演で、日本戦没学生記念会、わたなめ会、理事の高田孝士の証言、生還・特攻隊員の戦後生活の語り。」

えてみたら、視野を広げ、積極的に考え取り組むことになって新たな自己発見もできる」と思ひかけている。

職小原邦彦参院議員
 計業務妨害の疑いで
 た。十二日発表さ
 調べでは、小原参
 五月末から約一
 となつて約三回、

シェリウス：祝祭アンダンテ
 グリーグ：ホルベルグ組曲
 モーツァルト：オーボエ協奏曲
 モーツァルト：セレナード第7番
 14日午後1時15分～3時10分
 三テレビですので、全国の三

「御巢鷹に「安全の鐘」響く

遺族と日航社員ら
350人が尾根で除幕式

鐘は本体が高三十センチ、頂上部に「うがいの鳥があしひらかれてゐる。一羽の安全を祈つて」と書かれたレリーフと高さ二メートルの支柱にのりつけられてゐる。遺族100人、日航・三井物産の最終採算場所には、

「8年

「請れわたった御巢鷹の尾柱に鐘の音が響いた——五百二十人の犠牲者を出した日航ジャンボ機事故から丸八年を迎えた十二日、群馬県多野郡上野村の霊柩場、に遺族らが設置した「安全の鐘」が完成、早朝から遺族と日航社員ら約三百五十人が尾根まで登つて除幕式をした。「あの悲惨な事故を二度と繰り返さない」との願いから、遺族らは日航との複雑な感情のしこりを初めて乗り越えて、日航社員の手とをとりあつて鐘を鳴らした。

をかけたたり、NET系のことを言々と話して業務を妨害したとして、昨年十二月に電話転を申し込んだ際、悪かったのでもったいむでござい。同一は電話の転移や新を受け付ける営業所、話料はかからぬ。

盗みの疑い
少年〇人逮捕
暴走族少年一課

「飲むとアルコール検知されず」

口コミ人気の清涼飲料水

調べたら「効果ゼロ」

警視庁・警察庁結論

今年暮に発売された清涼飲料水が、一飲むと飲酒運転の検問で検知器にかかっても大丈夫と口コミで広がり、都内を中心に売れている。このため、警視庁交通部はこの飲料水の「効果」などを調査、警察庁も成分鑑定をしたところ、結果は、「アルコール検知には全く影響がない」。減らない飲酒運転に頭を悩ませている警視庁などは「極めて遺憾なところだ」と。そんな場合にも飲酒運転はしないことと断言している。



昇魂之碑前に新しく作られた「安全の

日航ジャンボ機事故から8年

の客は、約二、三万坪の
界隈の碑の前に達した。
日航を代表して桑林真
副社長が、父親を失った
大阪市の豊島津子君(10)
いっしょにロープを持っ
鐘をついた、明く澄ん
音が尾根に広がってい
た。全員が一瞬間の黙
をすも、またバタバタ
に放たれた。その後、次
と家族と社員がそれな
る思いを胸に鐘の音を響
た。現場に出席する豊島

社内教育に役立てる計画も、実行に移されてい
「風化を防ぐために、
日航を追及するだけでな
く、とにかく安全を考慮す
べし」という気持ちが
遺族の間で芽生えてきた
鐘をいっしょにつくなん
て、去年なら考えられな
かった」と、連絡の美谷島
邦子事務局長は言う。
午後からはあちこの慰霊
の圖で、利光松男日航社長
日、都内に住む七十
九歳までの暴走
ブの少年十八を、
いで逮捕した、と
た。
調べによると、マ
品川区の本土の少
二人は昨年四月二
夜、品川区で路上
いた女性さきの後
イクに二人乗りし
き、現金六十五万
たを手提げバッグを
ったとされる。こ

誤へて六人は一
から今年六月まで